

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 実践記録

研究主題

「自ら学ぶ力」を身に付けた子供の育成
～国語科を中心とした思考力・判断力・表現力を育む授業の育成～
土佐市立蓮池小学校

実践概要：

本校は、2年間、図書館・新聞を活用して言語活動を充実させ、読解力を高める授業実践を重ねてきた。特に今年度は、昨年度の研究を基に、授業づくり講座の拠点校として松永立志先生のご指導を受け、「単元構想・言語活動の充実・教材研究」の在り方について校内で研究を深めた。

単元構想と言語活動については、「作品全体を貫いて追求すべき課題」で児童にとって魅力的で意欲（相手意識・目的意識）がもてる言語活動を設定し、言語活動を通して指導事項が指導できるものとした。教材研究については、教師が指導事項をしっかりと理解して教材文を分析し、関連図書資料や新聞を活用することで「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を図った。4回の授業づくり講座と自主公開授業研究会に向けて研修を繰り返すことで、教員の単元構想や言語活動への理解が進み、教材研究への意識も変わってきた。また、他校への発信も積極的に行った。

キーワード：単元構想、言語活動の充実、教材研究、相手意識・目的意識、指導事項、関連図書資料や新聞を活用

1. 研究仮説

次の4点を強く意識して授業改善を図れば、「自ら学ぶ力」を身に付けた子供が育つのではないかと考えた。

- ①思考力・判断力・表現力の基礎となる言語の能力を育成する国語科において、その基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- ②課題の発見と解決に向けた「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を図る。
- ③学校図書館教育計画の作成及び図書や新聞の計画的な活動推進を通して、「読み」を鍛える。
- ④教科等横断的な視点を持ち、国語科で身に付けた能力を、他教科等の学習でも活用できるような場面を意図的に設定し活用させることで、より汎用性の高い思考力・判断力・表現力を育み、学習の有用性を実感させる。

2. 実践方法

(1) 思考力・判断力・表現力を育む授業づくりについての研究

- ①国語科を中心にした授業実践及び授業改善
(校内研修・公開授業・通覧授業等 12回以上)
- ②語彙を磨き、語彙を豊かにしていくための指導研究
・国語辞典や百科事典等の利用指導 等
- ③先進校視察や講演会での研修
- ④NRT（全国学力標準調査）、全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査等の結果分析を踏まえた授業改善

(2) 学校図書館活用の充実

- ①学校図書館活用年間計画の修正
・国語単元別参考図書 等
- ②学校図書館並びに図書館資料を活用した授業の実施（国語科を中心に他教科等に広げる）
- ③学校図書館の環境整備
・排架
・テーマ別展示
・2Fギャラリーの展示

④全校加力指導の際に、20分間、図書館資料や新聞資料を活用したプログラムを組む

(毎週火曜日 1・2年 15:00～
3年以上 15:50～)

⑤出合いの企画

- ・オーサービジット
- ・親子読書研修会 等

⑥図書委員会の活動の充実

⑦コンクールへの応募

- ・読書感想文コンクール
- ・読書感想画コンクール 等

⑧関係機関との連携

- ・土佐市民図書館
読み聞かせ（毎週金曜の朝）
ストーリーテリング（毎学期）
学級文庫への排架

・国立国際子ども図書館

(学校図書館セット貸出の活用)

・地域学校協働本部（夏休みの図書館開放）等

(3) NIEの充実

①NIE年間計画の修正

②新聞を活用した授業実践

(国語科を中心に、他教科等に広げる)

③NIEの環境整備（新聞読み比べコーナー・新聞資料のファイル化 等）

④NIEタイムの充実

(H26年度～ 毎週金曜 13:50～14:00)

・新聞ワークシート

・投稿・記事の紹介 等

⑤家庭との連携

「家族DE新聞（毎月実施）」の取組継続
(H27年度～)

⑥コンクールへの応募

- ・新聞感想文コンクール、学校奨励賞
- ・高知新聞読もっかへの投稿
- ・学校新聞づくりコンクール

- ⑦関係機関との連携
 - ・新聞社
 - ・地域学校協働本部（高知新聞高岡西販売所）
- (4) 「読み」の力を鍛える組織的な校内研修のあり方についての研究
 - ①各種データ等に基づいた授業改善（PDCA サイクル）
 - ・子どもによる授業アンケート、授業力チェックシートの活用
 - ②OJTによる人材育成
 - ・推進教員と担任による授業実践
 - ・ワークショップ型事後協議
 - ③外部資源（人的資源）の活用
 - ・松永立志先生（元鎌倉女子大学准教授）
 - 二瓶弘行先生（桃山学院教育大学教授）
 - 泰山 裕先生（鳴門教育大学准教授）
 - 中内栄子先生（元初月小学校長）等

3. 実践内容

「主体的・対話的で深い学び」は、能動的に集団で課題を解決していく中で、教育の本質にふれていく学習である。本校では、国語科は「言葉を問い、協働で言葉の仕組みを見だし、自分の読みを根拠をもって言葉で表現すること」と考え、こうした学びを具体化するために、国語科の授業に反映させている。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善

- ①めあては児童のものになっているか
 - …主体的な学びを促すための【課題性】

単元では「作品全体を貫いて追求すべき課題」を設定し、これを解決していくために読み進める。単元の始めには、以下のことを意識して課題設定を行った。

- 場面ごとではなく、全文を通して追求している課題
- 作品の特性を壊さず、且つ、作品の主題に通じる課題
- 課題を解決する活動の中に、心情や情景を読み取る力を育成できる課題
- 全員が取り組む意欲と価値のある課題

単元構成は、初発の感想等を活用して、児童にとって魅力的で意欲（相手意識・目的意識）がもてる言語活動を設定し、言語活動を通して指導事項が指導できるものとした。

また、「気持ちは？気持ちは？」と聞かないで「気持ち」を考えるための課題解決的な読みを目指す単元構想を作成し、課題解決に向かうために、登場人物の心情や場面の情景を考えざるを得ない学習をする。

- ②協働的な学習の中に、対話が生まれているか
 - …対話的な学びを促すための【交流性】

読解力は、個人が読み取ったこと（人物観、心情観、情景観等）を出し合うだけではなく、その考えに至った理由や根拠を話し合い、共有化することで身に付く。その時、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるように、教師は働きかけていく。

この単元や1時間の授業で、児童にどのような資質・能力を身に付けさせたいかを明確にして、そのために「言葉による見方・考え方」を働かせる活動を意図的に取り入れた授業づくりを行った。さらに、「変容なくして交流ではない」考えの基、児童が必要感をもって交流し、自他の変容を実感できるような共有化の場面を設定するようにした。

- ③教材の特性が生かされているか
 - …深い学びを促すための【教材の特性】

授業づくりは、深い内容の理解と目の前の児童の実態の把握に基づく教材分析から始まる。しかし、教材分析の際には、学習指導要領を読み解き、低中高学年の読みの系統性を踏まえた上で、本教材で付けたい力を明らかにしておく必要がある。

そこで、本校では今年度は「読みの系統性と全文シートを活用した教材研究」に取り組んだ。

文学作品では、全文シートで心情把握の重要箇所や主題につながる伏線となる叙述や挿絵との関連などを押さえるようにした。低学年では「登場人物の言動に対する自分の想い」、中学年では「人物や情景の変化とその伏線」、高学年は「変化を踏まえた自分の考え」等の「言葉による見方・考え方」の働かせ方の系統を踏まえて教材研究を行った。

(2) 授業実践

本年度は、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童が相手意識・目的意識をもち、主体的に学習に向かえるような言語活動を設定すること、関連図書等を活用した単元構成を工夫することを中心に研究した。（資料1）さらに、「国語科授業づくり講座」では、新学習指導要領の趣旨に基づく授業づくりに取り組んだ。

第2学年「お手紙」（光村図書2年下）では、人物の会話から登場人物について捉え、「アーノルドさんになって、『ふたりは〇〇』の絵本をつくろう」という言語活動を位置付けた。児童が意欲的に教材文や関連図書を読み、登場人物の行動や気持ちからどんな人物で、どんな行動をしそうかと想像するために、この言語活動を設定した。がまくん、かえるくんらしさを見付けるためにシリーズ本を並行読書し、見付けた「らしさ（自分の言葉）」を付箋に書きボードに貼って、全員で共有した。

「アーノルドさんになってお話をつくる」ためには、どんな書き方をすればいいのか、また、がまくん、かえるくんはどんな人なのかを読み取っていった。「がまくん、かえるくんの会話文や行動等の叙述（言葉A）」から想像した、「二人の気持ちやどんな人か（自分の言葉B）」を対話で共有することで、見方・考え方を働かせて読み深めた。全文シートを活用し、見付けた会話文や行動に線を引き、そこから分かることを短い言葉で書き表した。全文シートで友達と交流することはお互いの考えを深め合うのに有効であった。

児童の相手意識・目的意識を大切に
した課題と言語活動の設定

2学年 実践例

アーノルド・ローベル風
「ふたりは〇〇」の絵本を作ろう

「お手紙」学しゅうのながれ **ぜんぶで10時間**

1. 学しゅうのめあてやながれをつかもう。

☆はじめて読んだかんそうをこうりゅうしよう。

☆「お手紙」いがいのお話を読んでみよう。

2. したことや言ったことに気をつけて読み がまくん、かえるくんのことを知ろう。

☆さし絵を見ながら場めんをわけよう。

言ったことやしたことをせいいりして読もう。

☆がまくんやかえるくんについて分かることを見つけよう。

☆かえるくんはどんな人なのかな？

☆がまくんってどんな人なのかな？

原かのお話を
読もう
お話の
なごもた
めいこう

3. お話を考えよう。

☆「お話のタネ」をつかって、お話を考えよう。

☆お話をかんせいさせよう。

☆できあがったお話を読み合い、かんそうをつたえよう。

資料1：関連図書を活用した単元構成

【一次】

○1・2時間目

「お手紙」、関連図書、他校の2年生が作ったがまくんとかえるくんのお話を聞き、目的意識と学習の見通しをもつ。そして、「お手紙」や関連図書を読んで、二人の会話文や行動(叙述)から想像したことを書き出し共有する。

【二次】

○3・4時間目

お話の大体を捉える。挿絵を基に場面や人物・行動・会話文を捉える。アーノルドさんの書き方の秘密を見付ける。

○5時間目

教材文や関連図書のがまくん、かえるくんの会話文や行動(叙述)から、登場人物がどんな人かを想像する。

- ・全文シートに想像したことを書いた付箋を貼る。
- ・関連図書を読んで想像したことは付箋に書き、ホワイトボードに貼る。
- ・お話ポケットにお話のタネを入れる。



写真1：お話ポケットにお話のタネを入れる児童

(写真1)

○6時間目

「かえるくんってどんな人か」について話し合う。会話文や行動(叙述)を基に想像する。

- ・自分のお話ポケットに入れるお話のタネを書く。

○7時間目

「がまくんってどんな人か」話し合う。会話文や行動(叙述)を基に想像する。

- ・全文シートに書いた、自分の考えを交流する。

(写真2)

【三次】

○8・9・10時間目

「お話のタネ」を基にお話の大体を考え、お話を完成させて交流する。(資料2)



写真2：全文シートを使つての交流



資料2：2年生の作ったお話

(3) NIE (教育に新聞を) の充実

児童と新聞をつなぐことにより、言語活動を充実させ、読解力の育成を図る取組を進めている。本校の主な取組は、「新聞を活用した授業づくり」「家族DE新聞」「NIEタイムの充実」「高知新聞『読もっか』への投稿」「新聞コーナーの設置」「コンクールへの応募」である。

①新聞を活用した授業づくり

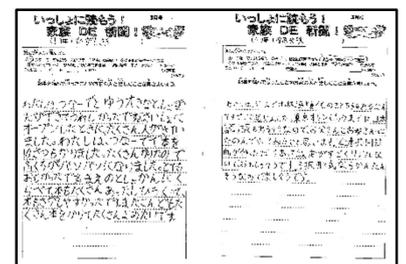
新聞の読み比べや教材としての新聞活用、学習のまとめとしての新聞づくりなど、多様な言語活動に新聞を活用している。(写真3)



写真3：授業での新聞活用

②家族DE新聞

学期に3回程度、数編の高知新聞の切り抜き記事を家庭に配布し、選んだ記事について親子で意見交換し、感想を書く。届いた感想をまとめて通信で家庭に返すことで、同じ記事を選んでいても感じ方や考え方が



資料3：家族DE新聞

違っていることに気付いたり、違う記事の友達の意見を読んだりすることで緩やかではあるが読解力の向上につながる取組としている。(資料3)

③NIEタイム(毎週金曜日13:50~14:00)

全校が一斉に、新聞記事を紹介して読んだり、ワークシートや読もっか投稿記事などを書いたり等、新聞を活用した活動に取り組んでいる。高知新聞の方に来ていただき、「コラージュ川柳」にも取り組んだ。次は、NIEタイムでの取組の一例である。

学年	内容
1A・1B	「読もっか」への投稿原稿づくり
2A	「のいち動物公園 ミルキーに運動場」の記事(2019.1027)を基に、気付いたことや感想をもつ。
3A	「読もっか すみっこクイズ」を基に、「はずいけ すみっこクイズ」をつくる。
4A	「レッツ!コラ川」への投稿に向けて、新聞の見出しから5音・7音の言葉を見つける。(翌週には、高知新聞記者とコラージュ川柳を作った。)
5A	今月配布の「家族DE新聞」を各自で読む。興味のある記事を選び、自分なりの感想を持ち帰り週末に家族で読んで感想を書く。
6A	「ゆるキャラ」の記事を基に作成したワークシートで学習をする。(翌週のNIEタイムで、土佐市のゆるキャラを自分で考える。)

表1：NIE タイム取組例

④「読もっか」への投稿

高知新聞「読もっか」(記事・イラスト・4コマ・コラージュ川柳等)への投稿を継続しており、掲載時には地域の方からも声を掛けていただくことが多い。自分の想いを表現したものが家族や地域から認めてもらう経験は、児童の自己肯定感の高まりに繋がる。令和元年度は「イラスト大賞」受賞した。

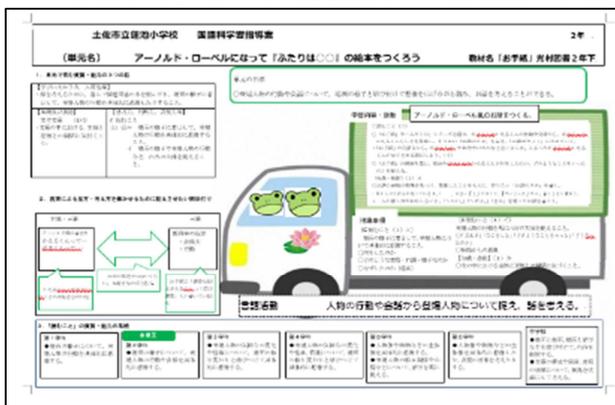
⑤コンクールへの応募

「第15回、第16回新聞感想文コンクール」に全学年が応募した。連続で優秀学校賞(小学校1校)を受賞した。「学校新聞づくりコンクール」に応募し、5年生の「仁淀川調査新聞」は特選を受賞した。

4. 成果と課題

本年度は、指導案についても見直した。

児童の実態を踏まえた上で、学習指導要領に基づいて、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、教材文で働かせる見方・考え方を具体的に表記した。そして、学習活動でどのように指導するかをトラック図を使って視覚的に表現し、単元計画にまとめる。この時、学年や一年間の学習の系統性を考えて作成する。下が本年度作成した指導案である。



資料4：本年度作成の指導案の一部

指導案に指導事項などを簡潔な表記で視覚的にまとめるので、教員はこれまで以上に学習指導要領を精読してから教材研究に取り組んでいた。また、教えることが焦点化できているので、各時間にどのよ

うな見方・考え方を働かせる活動をすればよいのかを考えて教材研究に取り組んでいた。そうすることで、児童の実態と付けたい力を考えた上で言語活動を考えたり、児童の課題意識や主体性を大切に単元構成を考えたりするようになってきた。

一方で、若年教員を中心に、「まだまだ、言語活動の設定や指導事項、見方・考え方の働かせ方が分かりにくい。」という悩みが聞かれた。

来年度は、本年度の指導案をベースに、「児童の実態—学習指導要領—単元—学習活動」のつながりがより明確になるような蓮池小学校の指導案を全員で作り上げていきたい。

また、学力の面では、学力調査等の結果や児童の実態を踏まえて、身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりに取り組んだことにより、少しずつではあるが文章の読解力や情報活用能力が付いてきたことが成果である。以下は、本年度5年生の高知県学力定着状況調査の2年間の変化と、本年度の授業力チェックシートの総括結果である。

	国語(全国比)
H30年度	+1.0P
R元年度	+9.4P

表2：高知県学力定着状況調査結果

授業力チェックシート総括票(児童用)

学校名		
回答児童数	年度当初	185 人
	年度末	183 人

要素ごとの診断結果(平均)

	教材研究	授業構成	指導技術	児童理解
年度当初	3.6	3.5	3.5	3.7
年度末	3.5	3.5	3.8	3.7

表3：授業力チェックシート 本校結果

児童からは「自分の考えに理由を足したり、資料などを見せて説明したりすると納得してもらえる」「提案の資料を読み取ることは、他の教科や普段の生活にも生かされる」「ただ文章を読むだけではなく、筆者や作者の伝えたいことを読み取ることが大切」「情景描写から人物の気持ちが読み取れるようになった」などの振り返りが見られた。

しかしながら、細かい内容を見ると「語句の意味」「文法」「同音異義語などの語彙」が苦手な児童が多い。また、文章の読解や条件に応じて書く内容はできても、自分に必要な情報を収集・選択し、効果的に表現することに課題がある。そのために、新聞活用や新聞づくりについてもさらに効果的に行いたい。

さらに、国語科で身に付けた言語能力や情報活用能力を、他教科等の学習でも活用できるまでには至っていない。教科等横断的な視点でのカリキュラムマネジメントの推進が必要である。

来年度は、これらの課題について国語科以外で教科等横断的に取り組めるように計画していく。

[引用文献]

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」平成29年3月